

学生時代に身に付けておくべき事 第1弾

日本学生卓球連盟 副会長 鈴木一雄

スポーツマンシップについて

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催決定以降、国内ではスポーツ関連ニュースをメディアが数多く取り上げられ社会的に注目を集めています。

以前より大学生スポーツマンはアスリートとして社会の中に多く登用され活躍しています。その理由は「スポーツマンシップ」が身につけている事がおおきな要因と考えます。ついでに改めて確認したいと思います。定義について具体的なものがあまりなく以下スポーツメーカー アシックス創業社長鬼塚喜八郎「失敗の履歴書」の中の“**スポーツマン精神の6か条**”を紹介します。学生諸君ぜひ参考にさせていただき様をお願いします。

第1条:スポーツマンは、常にルールを守り仲間に対して不信な行動をしない。

第2条:スポーツマンは、礼儀を重んじ、フェアプレーの精神に徹し、いかなる相手もあなどらず、たじろかず、威張らず、不正を憎しみ、正々堂々と尋常に勝負する。

第3条:スポーツマンは、絶えず自己のベストを尽くし、最後まで戦う。

第4条:スポーツマンは、チームの中の一員として時には犠牲的精神を発揮し、チームが最高の勝利を得るために闘わなければならない。そこに信頼する良き友を得る。

第5条:スポーツマンは、常に健康に留意し、絶えず練習の体験を積み重ね、人間能力の限界を拡大し、いついかなる時でもタイミング良く全力を発揮する習慣を養うことが必要である。

第6条:スポーツマンは、ころんだら、起きればよい。失敗しても成功するまでやればよい。

鬼塚社長は毎年新入社員を前に、この精神の話をされたそうです。

この「スポーツマン」のところを「企業」又は「企業人」と置き換え、社会人としても通用する精神としています